

沖縄戦 過去から今、そして未来へ

○金野慎太郎（札幌国際大学スポーツ指導学科）, 指導教員 林 満章

キーワード：琉球 沖縄戦 基地

【緒言】

Awichさんは沖縄県那覇市出身の女性アーティストラッパーである。彼女の作る楽曲はとにかく多彩でどの楽曲にも彼女の信念や想いが込められている。また沖縄県出身ということもあり、自分の感じてきたこと目で見たいものを歌詞にして歌っている。

私は、Awichさんの地元や、若い人達のために動いているところに感銘を受けた。沖縄の美しい世界や景色だけではなく、その裏側にそれぞれ抱えている心情を汲み取り音楽にして色んな人に勇気を与えているなど思い、研究の主題として取り組もうと思いはじめた。

唯一日本で行われた地上戦。今でも沖縄戦の名残が色濃く残る。金網の向こう側には別の国で毎日朝から夜まで空にはヘリコプターが飛び交っていて、法律すらも違う。そこで戦争や、沖縄が抱えている問題を通して自分なりの考えを見つけていこうと思う。

【沖縄戦】

1945年3月末から6月末にかけて日本軍とアメリカ軍だけではなく、市民すべてを巻きこんだ戦いが3ヶ月以上続いた。沖縄は日本軍とアメリカ軍が直接地上戦が行われた場所であり、この沖縄戦によって多くの方が犠牲になった。沖縄戦は、アメリカ軍が1945（昭和20）年3月26日、那覇市の西にある慶良間諸島（けらましょとう）に上陸して始まる。アメリカ軍は、4月1日に沖縄本島中部、読谷村（よみたんそん）に上陸し、北と南に分かれて進んだ。南に向かったアメリカ軍は、日本軍の本部があっ

た首里城（しゅりじょう）をめざし、軍を進めた。中部及び首里で行われた日本軍とアメリカ軍との戦いは40日以上続くものだった。沖縄戦が終わったのは日本軍の司令官が自分で命を絶った6月23日といわれているが、その後もいろいろな場所で日本兵の抵抗が続き、日本軍が降伏文書にサインしたのは9月7日のことだった。

【考察】

米軍占領時整備された元軍道は、那覇空港や普天間飛行場、嘉手納基地を結び、軍用車両と「Y」ナンバーが行き交っている。沖縄には様々な問題を抱えている人がいて表面上では笑顔だがとても深刻な問題を抱えている人もいた。沖縄戦から今日まで月日が流れてもあの時の記憶や、目の前で亡くなった友、銃声、自分だけ生き残ってしまったという罪悪感。そういったものが沖縄戦から消えずに今もある。それは未来にも存在していくと思う。沖縄戦があったからこそ出来たもの、無かったら出来なかったものがあり毎日色々な意見が飛び交っている。この論文を書いている中で本当のことは自分で見たり、聞いたりしてみないとわからないなど改めて感じた。政治家の話やメディアで映るのはほとんど本当のことは無いと現地の人に聞いた時には驚きを隠せなかった。基地問題や軍人の問題をまず考えることが沖縄の未来に繋がると思った。沖縄が抱える問題を追及して学びと伝える事を忘れずに明るい未来のために動いていきたい。もっと知りたいという意欲も湧いている。